

2成分 14.2%) では、第1成分と第2成分による平面において第4象限に付置されたのは産経新聞社のみで、第1象限には毎日新聞社と日本経済新聞社、第2象限には朝日新聞社、第3象限には読売新聞社がそれぞれ付置されていた(表9、10、図8)。

D. 考察

新聞は代表的な活字メディアであり、一般人への移植医療に関連した情報の有力な提供手段と考えられる。掲載量は年次によって異なり、何らかの事象(臓器移植法の制定、脳死下での臓器提供第1事例の発生など)が生じた時に多くなっている。

掲載内容は、最近の5年間では「ちゃん」「渡航費」などの語に示されるような個人の渡航移植事例を掲載したもの、あるいは「M医師」「臓器売買」などの語で示される移植医療における社会的な問題が多く取り上げられている様子が窺われた。徳州会宇和島病院を中心とした生体腎移植における事件が多く取り上げられていた2006年を外した4年間の新聞記事による対応分析では、掲載年による臓器移植関連記事の傾向が明らかになった。2002年には個人の渡航移植事例を取り扱った記事が多かったが、2003年には個人の渡航移植事例に関連して臓器移植法改正に係わる記事が掲載されて、その傾向は2004年に強い。しかしながら、2005年では個人の渡航移植事例の掲載が多くなっていた。

掲載新聞社別に関連記事の内容をみると、臓器移植法や臓器提供などの情報と強く関連しているのは本研究で対象とした所謂5大紙のうち1社であり、他の新聞社では個人の渡航移植事例やそれに伴った臓器提供の制度やシステムに関する語と関連が強かった。現在の新聞社の組織体制では、前者は科学部、後者は社会部が取り扱うことが多く、社会部の事件的な取扱が多くを占めていることが伺える。

一般人に対して移植医療への理解や臓器提供の促進を図るためには、一定の質を確保し

ながら適切な情報を提供し、なおかつそれを維持する必要がある。しかしながら、情報提供の有力なツールの1つである新聞では、その要件が満たされていない。特に、臓器移植の制度やシステムに関する情報の提供頻度が高いと考えられる新聞社は、本研究で取り上げた5社のうちの1社であり、情報の提供という点で均一ではない。このことは、各新聞社の移植医療に対する態度と、記事の担当者の知識に相違があるためと推測される。あわせて、医療側からの新聞社への適切な情報提供のあり方についても検討されることが望ましい。

E. 結論

代表的な活字メディアである新聞報道の分析では、移植医療に関する記事の掲載頻度や内容は、掲載年や新聞社によって異なっていた。特に、社会部の取り扱う事件的な報道は各社で多くを占めていたのに対して、制度などに踏み込んだ報道は少なかった。医療側からの新聞社への移植医療に関する情報提供のあり方についても、今後検討されることが望ましい。

F. 健康危険情報

なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

○長谷川友紀, 城川美佳: 移植医療に関する一般人向け広報についての研究—新聞記事よりの検討—。第43回日本移植学会総会, 仙台, 2007. 11.

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

1. 特許取得

該当せず

2. 実用新案登録

該当せず

3. その他

該当せず

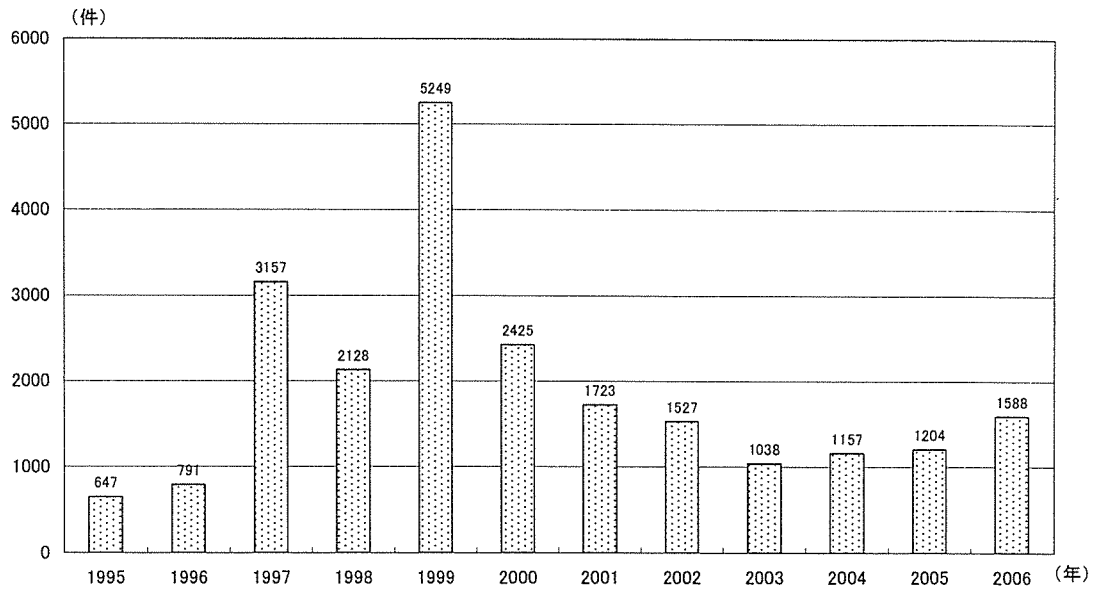


図1 「臓器移植」関連記事数の年次推移

*対象新聞: 朝日, 読売, 毎日, 日本経済, 産経の5紙
*「臓器移植」を検索語として、見出し・本文において「任意一致(文字列があれば抽出する)」した記事を選択

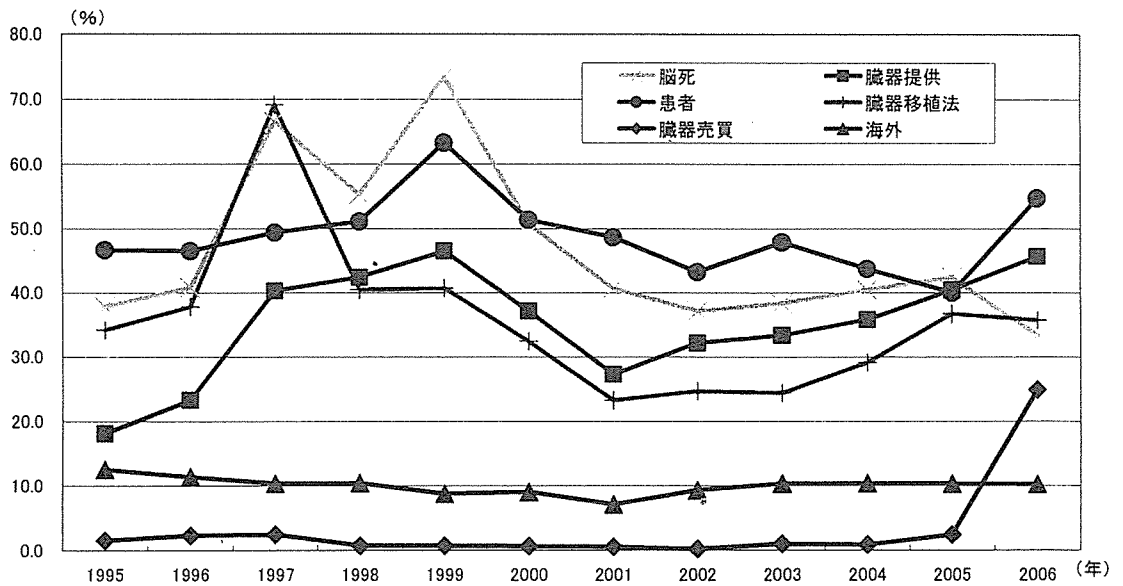


図2 内容別記事数の推移

* 各掲載年ごとに、内容別件数の割合を示した。

厚生労働科学研究費補助金 (厚生労働科学特別研究事業)
研究報告書

表1 構成要素の成分別数量化得点

寄与率 (%)	第1成分		第2成分		第3成分	
	3.21		2.36		2.03	
上位1位	目標額	2.26	骨髄バンク	2.57	骨髄バンク	3.18
上位2位	渡航費	1.92	ドナー登録	2.37	ドナー登録	2.99
上位3位	支援団体	1.89	白血病	2.27	白血病	2.76
上位4位	渡米	1.86	骨髄移植	2.22	骨髄移植	2.60
上位5位	募金	1.85	白血球	2.01	骨髄	2.32
上位6位	ちゃん	1.83	骨髄	1.98	白血球	2.26
上位7位	手術費	1.81	一致	1.56	一致	1.53
上位8位	心臓病	1.71	適合	1.22	適合	1.47
上位9位	寄付	1.68	採取	1.08	採取	1.17
上位10位	支援	1.46	がん	0.90	登録	1.09
下位10位	倫理委員会	-0.78	肝臓	-0.87	倫理委員会	-0.88
下位9位	規定	-0.79	見通し	-0.89	学会	-0.92
下位8位	生体腎移植	-0.79	心臓	-0.91	日本移植学会	-1.03
下位7位	日本移植学会	-0.80	脳死	-0.91	生体腎移植	-1.13
下位6位	学会	-0.80	断念	-1.02	事件	-1.14
下位5位	禁止	-0.81	小腸	-1.44	禁止	-1.18
下位4位	指針	-0.82	肺	-1.46	M 医師	-1.19
下位3位	M 医師	-0.85	脳死判定	-1.55	倫理指針	-1.23
下位2位	臓器売買	-0.87	同時移植	-1.57	臓器売買	-1.32
下位1位	倫理指針	-0.93	脾臓	-1.70	逮捕	-1.43

* 2002-2006年の掲載記事を分析対象とした。

表 2 構成要素と掲載年の対応分析における構成要素の成分別数量化得点

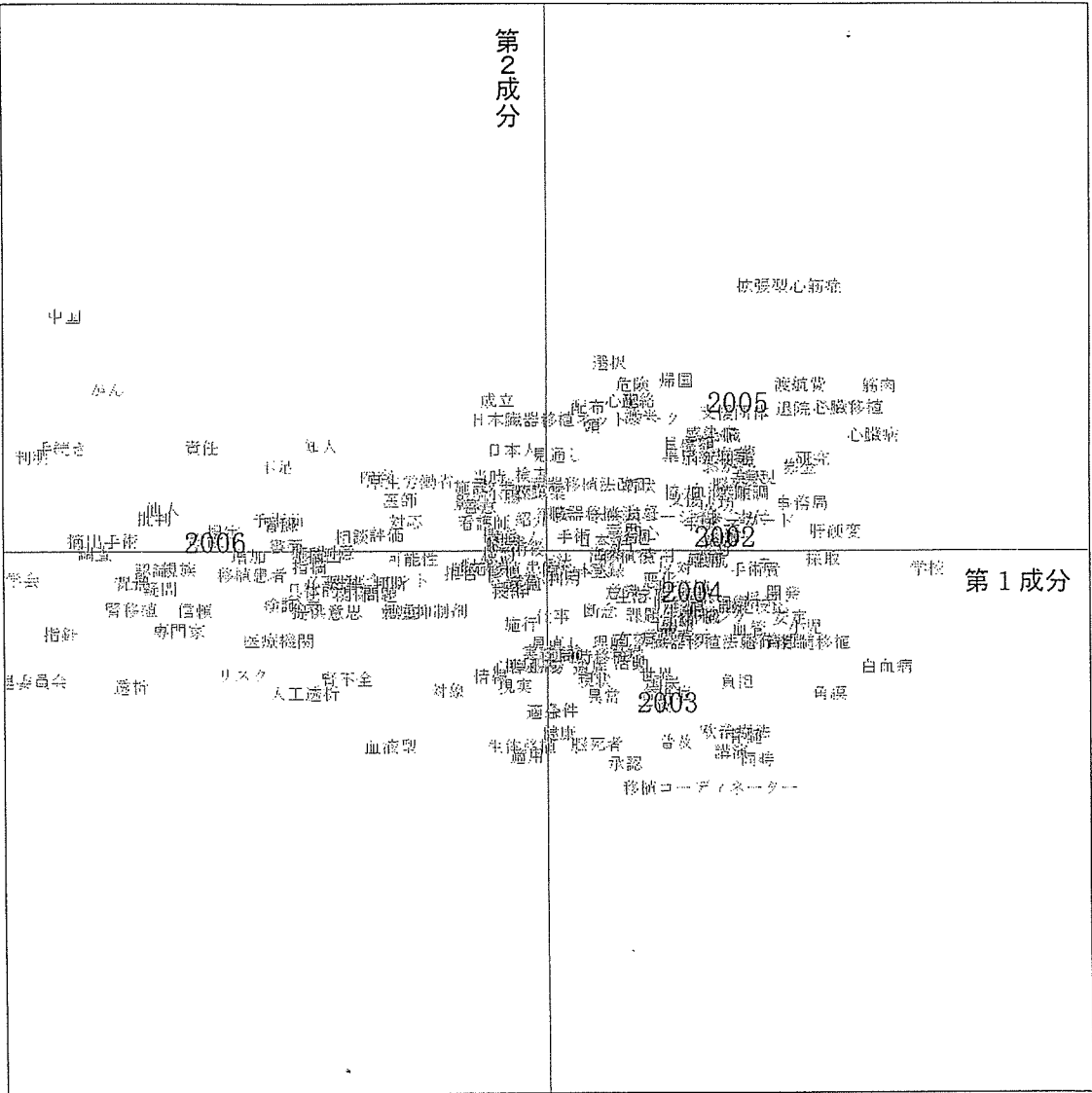
寄与率	第1成分		第2成分		第3成分	
	76.7		8.7		8.4	
上位1位	学校	0.50	拡張型心筋症	0.34	移植患者	0.29
上位2位	白血病	0.44	中国	0.30	集中治療室	0.27
上位3位	筋肉	0.43	選択	0.24	白血球	0.25
上位4位	心臓病	0.43	帰国	0.22	目標額	0.25
上位5位	心臓移植	0.39	渡航費	0.21	移植後	0.24
上位6位	ドイツ	0.38	危険	0.21	ドナー登録	0.23
上位7位	肝硬変	0.38	筋肉	0.21	安定	0.21
上位8位	角膜	0.37	がん	0.21	施設	0.21
上位9位	採取	0.36	成立	0.19	事務局	0.20
上位10位	骨髄移植	0.35	心配	0.19	寄付	0.20
下位10位	依頼	-0.76	骨髄	-0.24	臓器移植法改正	-0.25
下位9位	経緯	-0.78	普及	-0.25	倫理	-0.27
下位8位	執刀	-0.81	脳死者	-0.25	看護師	-0.28
下位7位	日本移植学会	-0.92	血液型	-0.25	年齢	-0.30
下位6位	倫理指針	-1.01	生体移植	-0.25	意思表示	-0.30
下位5位	生体腎移植	-1.06	講演	-0.26	成立	-0.31
下位4位	逮捕	-1.06	適用	-0.26	糖尿病	-0.33
下位3位	事件	-1.07	同時	-0.27	ドイツ	-0.47
下位2位	臓器売買	-1.28	承認	-0.27	改正案	-0.52
下位1位	M医師	-1.42	移植コーディネーター	-0.31	拒否	-0.53

* 2002-2006年の掲載記事を分析対象とした。

表 3 構成要素と掲載年の対応分析における掲載年の成分別数量化得点

	第1成分	第2成分	第3成分
2002年	0.23	0.01	0.15
2003年	0.15	-0.19	-0.00
2004年	0.19	-0.05	-0.14
2005年	0.25	0.19	-0.08
2006年	-0.43	0.01	0.00

* 2002-2006年の掲載記事を分析対象とした。



* 2002-2006年の掲載記事を分析対象とした。

図4 構成要素と掲載年の散布図（第1成分×第2成分）

表 4 構成要素と掲載新聞社の対応分析における構成要素の成分別数量化得点

	第 1 成分		第 2 成分		第 3 成分	
寄与率	68.3		13.8		10.9	
上位1位	レシピエント	0.81	摘出手術	0.29	目標額	0.30
上位2位	成立	0.60	承認	0.27	移植コーディネーター	0.27
上位3位	改正案	0.59	経緯	0.26	人工透析	0.25
上位4位	日本人	0.51	手続き	0.25	仕事	0.21
上位5位	拒否	0.50	断念	0.24	血液型	0.20
上位6位	臓器移植法改正	0.47	脳死判定	0.24	社会	0.18
上位7位	法律	0.45	渡航	0.23	疑問	0.18
上位8位	遺族	0.43	人工透析	0.20	法的	0.18
上位9位	生前	0.43	目標額	0.20	必要性	0.17
上位10位	施行	0.41	腎不全	0.20	看護師	0.16
下位10位	渡米	-0.47	不足	-0.28	血液	-0.23
下位9位	笑顔	-0.47	増加	-0.29	糖尿病	-0.23
下位8位	寄付	-0.50	現場	-0.32	血管	-0.24
下位7位	友人	-0.51	移植コーディネーター	-0.32	実施	-0.25
下位6位	骨髄	-0.54	遺族	-0.37	骨髄	-0.25
下位5位	ドナー登録	-0.56	現実	-0.37	開発	-0.26
下位4位	支援団体	-0.60	日本人	-0.39	見通し	-0.28
下位3位	白血病	-0.71	法律	-0.40	欧米	-0.33
下位2位	骨髄移植	-0.74	中国	-0.42	M 医師	-0.37
下位1位	骨髄バンク	-0.77	成立	-0.46	採取	-0.41

* 2002-2006 年の掲載記事を分析対象とした。

表 5 構成要素と掲載新聞社の対応分析における掲載新聞社の成分別数量化得点

	第 1 成分	第 2 成分	第 3 成分
朝日新聞	-0.02	0.06	0.13
読売新聞	-0.25	-0.02	-0.04
毎日新聞	0.21	0.13	0.04
日本経済新聞	0.32	0.15	-0.29
産経新聞	0.33	-0.19	0.01

* 2002-2006 年の掲載記事を分析対象とした。

厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）
研究報告書

表6 構成要素の成分別数量化得点

寄与率	第1成分		第2成分		第3成分	
	4.1		3.0		2.7	
上位1位	ちゃん	1.65	骨髄バンク	3.05	良好	1.39
上位2位	渡航費	1.61	白血病	2.74	脾臓	1.23
上位3位	手術費	1.60	骨髄移植	2.69	順調	1.15
上位4位	渡米	1.59	白血球	2.49	安定	1.14
上位5位	支援団体	1.57	骨髄	2.23	糖尿病	1.12
上位6位	募金	1.52	講演	1.24	白血球	1.11
上位7位	心臓病	1.38	紹介	1.13	退院	1.07
上位8位	寄付	1.36	登録	0.94	経過	0.96
上位9位	帰国	1.29	健康	0.92	骨髄	0.94
上位10位	支援	1.28	きっかけ	0.90	骨髄移植	0.93
下位10位	脳死	-0.85	手術費	-0.66	国民	-1.01
下位9位	承諾	-0.86	摘出	-0.67	本人	-1.03
下位8位	倫理	-0.86	渡航費	-0.68	議論	-1.09
下位7位	書面	-0.87	ちゃん	-0.69	書面	-1.29
下位6位	意思	-0.87	良好	-0.71	生前	-1.32
下位5位	ドナーカード	-0.89	拡張型心筋症	-0.73	意思表示	-1.36
下位4位	改正案	-0.92	脳死判定	-0.95	臓器移植法改正	-1.36
下位3位	脾臓	-0.94	肺	-0.95	倫理	-1.60
下位2位	拒否	-1.00	小腸	-1.02	拒否	-1.72
下位1位	脳死判定	-1.06	脾臓	-1.14	改正案	-1.75

* 2002-2005年の掲載記事を分析対象とした。

表7 構成要素と掲載年の対応分析における構成要素の成分別数量化得点

	第1成分		第2成分		第3成分	
寄与率	38.8		35.5		25.6	
上位1位	厚生労働省	0.25	改正案	0.49	拒否	0.35
上位2位	事務局	0.22	ドイツ	0.46	ちゃん	0.34
上位3位	渡航費	0.21	拒否	0.44	改正案	0.29
上位4位	感染症	0.21	拡張型心筋症	0.31	ホームページ	0.26
上位5位	連絡	0.21	臓器移植法改正	0.28	善意	0.24
上位6位	心臓病	0.21	看護師	0.28	遺族	0.22
上位7位	心臓移植	0.21	脾臓	0.26	法律	0.21
上位8位	友人	0.19	支援団体	0.24	課題	0.21
上位9位	寄付	0.19	帰国	0.24	承諾	0.21
上位10位	拡張型心筋症	0.19	日本人	0.22	移植コーディネーター	0.20
下位10位	欧米	-0.25	容体	-0.19	登録	-0.16
下位9位	普及	-0.25	登録	-0.19	見通し	-0.17
下位8位	条件	-0.26	症状	-0.19	生体移植	-0.17
下位7位	講演	-0.26	脳死者	-0.20	腎移植	-0.18
下位6位	移植コーディネーター	-0.27	安定	-0.20	日本人	-0.20
下位5位	年齢	-0.27	健康	-0.23	笑顔	-0.20
下位4位	意思表示	-0.29	白血球	-0.24	同意	-0.25
下位3位	改正案	-0.37	生体移植	-0.24	小腸	-0.26
下位2位	糖尿病	-0.42	骨髄	-0.28	血管	-0.26
下位1位	拒否	-0.51	承認	-0.38	健康	-0.31

* 2002-2005年の掲載記事を分析対象とした。

表8 構成要素と掲載年の対応分析における掲載年の成分別数量化得点

	第1成分	第2成分	第3成分
2002	0.12	-0.08	0.03
2003	-0.14	-0.11	-0.13
2004	-0.11	0.05	0.11
2005	0.06	0.18	-0.09

* 2002-2005年の掲載記事を分析対象とした。

表 9 構成要素と掲載新聞社の対応分析における構成要素の成分別数量化得点

	第 1 成分		第 2 成分		第 3 成分	
寄与率	69.6		14.2		9.9	
上位1位	改正案	0.69	渡航	0.25	移植コーディネーター	0.29
上位2位	日本人	0.52	拒否	0.24	仕事	0.26
上位3位	拒否	0.50	脳死判定	0.23	看護師	0.19
上位4位	法律	0.50	安定	0.21	手術費	0.19
上位5位	臓器移植法改正	0.47	手術費	0.20	遺族	0.17
上位6位	意見	0.47	肺	0.19	肝硬変	0.17
上位7位	施行	0.46	医療機関	0.16	生活	0.15
上位8位	生前	0.45	承認	0.16	法律	0.15
上位9位	意思	0.44	ドナーカード	0.16	ドナーカード	0.14
上位10位	欧米	0.42	意思表示	0.16	理解	0.14
下位10位	寄付	-0.44	条件	-0.22	骨髄	-0.22
下位9位	ちゃん	-0.44	問題	-0.22	治療法	-0.22
下位8位	骨髄	-0.44	指摘	-0.26	厚生労働省	-0.23
下位7位	友人	-0.47	国民	-0.26	糖尿病	-0.27
下位6位	渡米	-0.48	研究	-0.26	開発	-0.28
下位5位	笑顔	-0.51	世界	-0.28	血管	-0.29
下位4位	支援団体	-0.58	日本	-0.29	承認	-0.30
下位3位	白血病	-0.66	移植コーディネーター	-0.51	見通し	-0.30
下位2位	骨髄移植	-0.66	日本人	-0.69	実施	-0.37
下位1位	骨髄バンク	-0.68	法律	-0.81	欧米	-0.39

* 2002-2005年の掲載記事を分析対象とした。

表 10 構成要素と掲載新聞社の対応分析における掲載新聞社の成分別数量化得点

	第 1 成分	第 2 成分	第 3 成分
朝日新聞	-0.05	0.06	0.08
読売新聞	-0.26	-0.02	-0.03
毎日新聞	0.30	0.16	0.07
日本経済新聞	0.44	0.07	-0.34
産経新聞	0.33	-0.24	0.04

* 2002-2005年の掲載記事を分析対象とした。

4. 一般人の移植医療に関する意識の現状

主任研究者 長谷川 友紀 東邦大学医学部社会医学講座
分担研究者 城川 美佳 東邦大学医学部社会医学講座

研究要旨：東京、名古屋、大阪の成人居住者を対象とした電話調査では、611人から有効回答を得た。移植医療に関する情報を得るための媒体は「テレビ(90%)」が最も多く、次いで「新聞(72%)」であった。移植医療について知りたい情報が得られたのは回答者の27.2%に過ぎず、印象に残った報道としては「臓器売買」「宇和島事件」「渡航移植事例」が多く挙げられた。

A. 研究目的

一般人の移植医療に関する情報ニーズや、利用している情報媒体を把握することは、今後の移植医療に関する情報提供体制を検討する上で重要である。そこで本研究では、移植医療、特に移植医療に関する情報を得るためのツールや、情報ニーズ、および臓器提供に対する意識、態度、行動を把握することを目的とした調査を実施した。

B. 研究方法

1. 対象

対象は、東京都特別区、愛知県名古屋市、大阪府大阪市に居住する20歳以上の男女とした。対象数は、各調査地域とも200人程度とした。

2. 調査方法

電話によるインタビュー調査を実施した。対象世帯は電話調査法の一法であるRDD(Random Digit Dialing)法を用いて抽出し、また世帯内での個人の抽出には、誕生日法を採用した。調査項目は、①臓器移植に関する情報収集の手段、②臓器移植に関する情報ニーズと満足度、③最近の臓器移植に関するメディア報道、④臓器提供に対する意識である。調査期間は、平成19年3月2日～8日である。

(資料1に電話調査の調査票を示す)

(倫理面への配慮)

対象者への調査協力依頼は電話でのコンタクト時に行い、コンタクト対応者(電話に応

対したもの)及び調査対象者の双方から承諾を得られたものみに調査を実施した。

本調査では、把握している回答者の情報は、回答者の電話番号と基本的属性(性別、年齢、職業など)のみであり、本人と連結させる手段を持たない。そのため、回答データ等の情報の管理に十分な配慮を行うにとどめた。

C. 研究結果

2,864世帯にコンタクトを取り、611人の有効回答を得た(有効回答率=有効回答数/(有効回答数+拒否数)=21.3%) (なお、コンタクト時に世帯を代表して電話に応答したものは必ずしも調査対象者ではないため、一般的な「拒否数」とは異なることに注意する必要がある。)回答者の性・年齢別分布を表1に示す。

回答者に、臓器移植に対する関心の程度を質問したところ、「何が何でも知りたい」を100%とした場合、全体で55.8±23.9%であり、地域による違いはなかった(東京54.4±26.2%、名古屋55.0±21.4%、大阪58.0±23.6%)。

1. 臓器移植に関する情報の収集手段

臓器移植に関する情報を得る媒体を、「臓器移植に関する情報を得るのによく用いる媒体」と「臓器移植に関する情報が欲しいと思ったときに最初に使う媒体」の2つについて質問した(表2)。臓器移植に関する情報を得るのによく使われる媒体は、テレビ(全体

の90.2%)、新聞(71.5%)で多かったのに対し、臓器移植の情報を得たいと思ったときに最初に使う媒体は、医療関係者が最も多く(35.0%)、次いでインターネット(32.4%)であった。

よく使う媒体では1.1%の回答者、最初に使う媒体では9.8%の回答者が「適当な媒体がない」と回答した。

よく使う媒体に地域差は見られなかったが、最初に使う媒体では、東京では医療関係者でインターネットより多かったのに対し、大阪ではインターネットが医療関係者を上まわっていた。

よく使う媒体から知りたい情報が得られるか、についての質問では、全体で27.2%の回答者が「知りたい情報を得られる」と回答した。

2. 臓器移植に関する情報のニーズ(表3)

臓器移植に関する情報のニーズを自由回答で得た。全体では、「費用に関する情報」が最も多く(4.1%)、次いで「実際の手続き」や「統計情報」(ともに2.9%)、「臓器別の移植について」(2.8%)であった。「その他」には、医師の判断や、脳死判定、(移植医療の)安全性、病気腎事件などが分類された。また、回答では「臓器を提供した後の様子」、「臓器提供による家族の影響」など、生体移植をイメージした回答が見られた。

「家族や知人と臓器移植について話しをするときに知りたい情報」について、自由回答で回答を得た(表4)。全体では「臓器提供するための実際の手続き」、「統計情報」、「制度やシステム」が多くなっていた。また、「実際に体験した人の話を聞きたい」という意見や、「何かきっかけになればよいので、どんな内容でも構わない」など、より具体的な内容を求める一方で、情報ニーズが明確でない様子も窺えた。情報の種類は問わないが、「テレビのニュースや番組で流して欲しい」などの意見も見られた。

3. 最近の臓器移植に関するメディア報道
最近の臓器移植に関するメディア報道で「印象に残ったものがある」との回答は、全体で77.1%の回答者から得られた。印象に残った報道は、徳州会宇和島病院での病腎移植の問題を挙げた回答者が最も多く(印象に残ったとの回答者の58.4%)、その他には渡航移植(事例を含む)(10.8%)、臓器売買(5.5%)等があった(表5)。

印象に残ったメディア報道から得た臓器移植に対する印象は、肯定的が28.2%であったのに対し、否定的と回答した者は23.8%であった。

4. 臓器提供に対する意識(表6)

臓器提供に対する態度や行動について、質問した。臓器提供意思表示カードを周知している割合は全体で89.3%であり、入手方法は34.5%が知っていると回答した。カードの所持率は12.3%であった。また、回答者の41.9%は「家族や知人と臓器移植について話し合ったことがある」と回答した。

本人の臓器提供の意思は、脳死下で43.4%、心停止後では44.0%であった。また、家族の脳死提供の意思に対しては、脳死下で65.6%、心停止後で75.1%が「意思を尊重する」と回答した。

15歳未満者の移植に対しては、61.4%が「何らかの手段で臓器提供を認めるべき」と回答した。

D. 考察

1. 臓器移植に関する情報の収集手段

臓器移植に関する情報の収集媒体のうち、普段から用いられているのはテレビや新聞と回答する者が多かったのに対し、何らかの情報を得ようと行動するときに最初に使う媒体としては医療関係者やインターネットが揚げられていた。普段から用いている媒体は「情報提供者から提供される情報を受動的に受け取ることができる」媒体であり、何らかの情報を得るために最初に用いる媒体は「情報を

得るためには利用者が能動的に行動する必要がある」媒体と捉えることができる。回答状況から、一般人が情報に対する態度によって情報媒体を使い分けている可能性が認められた。また、「よく使う媒体から、知りたい情報が得られるか」という質問に対して、「得られる」と回答した者は27.2%に過ぎず、受動的な態度によって情報収集が可能な媒体では、情報ニーズが満たされないと考えられた。

しかしながら、一方で、「家族や知人と臓器移植について話し合うために、どのような情報があればよいと思うか」との質問において、「具体的な種類は言えないが、テレビなどで情報に接触する機会を増やして欲しい」という意見が散見され、受動的な情報媒体による情報提供が、移植医療の認知度向上に影響する可能性が示唆された。

2. 臓器移植に関する情報のニーズ

臓器移植のどのような情報にニーズがあるか、に関する質問項目では、「費用」「実際の手続き」などの具体的に臓器移植をイメージするための情報、および「統計情報」の臓器提供のニーズを把握できるような情報を求めている様子が窺われた。この情報ニーズは、家族や知人と臓器移植について話し合うために必要な情報でも、「実際に（臓器移植を）体験した人の話を聞きたい」など、より具体的な情報があげられていた。

3. 最近の臓器移植に関するメディア報道

2006年後半からメディアによって頻回に報道された徳州会宇和島病院を中心にM医師が係わったとされる臓器売買、および病気腎移植の問題は、回答者にも強い印象を与えていた。「最近の臓器移植に関するメディア報道で印象に残ったもの」があったとの回答者の77%がこの事件を挙げていた。また、渡航移植や15歳未満者での臓器移植が現在の日本では困難であることなど、現行法の改正に係わることについての関心も認められた。他方、「臓器移植後の方のマラソン参加」など

の情報ニーズに見合った、かつ臓器移植に対する肯定的な印象を与える可能性のある情報については、認知度が低くなっていた。本調査の実施時期も関連している可能性はあるが、マスメディアに情報提供を行う際には、その内容や提供のあり方を検討する必要があると考えられる。

4. 臓器提供に対する意識

臓器提供に対する知識、態度、行動において、本調査の回答者は、2006年に実施された臓器移植に関する意識調査の回答割合を上回っていた。調査対象地域は、2005年より製薬会社の協力による臓器移植の普及啓発活動が繰り返し実施されている地域でもあり、その効果がやや認められた可能性がある。

臓器提供意思表示カードの認知度は高いが、一方で「カードの入手方法」や「臓器提供の手順」が情報ニーズとしてあがっている。臓器移植に対して充分周知され、そのためにより詳細な情報を求めている様子が窺われる。また、15歳未満者での臓器提供については、内閣府による世論調査の回答状況よりも「何らかの手段で臓器提供を認めるべき」との回答割合が少なかった。最近のメディア報道で印象に残ったものとして、小児の渡航移植や日本では臓器移植を受けられないこと、などが挙げられていたが、その要因などについての知識が得られていない可能性がある。

5. 回答者の属性

本調査では、対象地域を最近の献腎状況から、東京都（献腎数は他県より多く、減少が見られない）、愛知県（献腎数は多いが、減少傾向）、大阪府（献腎数が少なく、減少している）の3地域を選択した。しかしながら、各回答割合や関心度の程度に地域による違いは見られなかった。各地域とも、臓器移植に対する関心度は同程度であり、分布状況に差が見られなかった。臓器移植に対して比較的高い関心を持つ者が回答者に選択された可能性がある。関心の高い層が含まれているため

に、却って提供されている情報で満足している回答者が 27%に留まっている可能性がある。また、家族や知人と臓器移植について話し合う機会を持ったことのある回答者は 42%程度であり、臓器提供者数の増加の歯止めとなっている可能性がある。

E. 結論

本調査では一般の地域居住者を対象に 3 地域において意識調査を実施した。高い関心度を維持、向上をはかり、臓器移植についての知識や認識を普及し、臓器提供者数の増加を求めるためには、情報の受け手のニーズや受け取る手段の傾向を考慮した情報提供を行う必要がある。

F. 健康危険情報

該当せず

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

○城川美佳, 長谷川友紀: 移植医療に関する一般人向け広報についての研究—電話調査よりの検討—. 第 43 回日本移植学会総会, 仙台, 2007. 11.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

厚生労働科学研究費補助金 (厚生労働科学特別研究事業)
研究報告書

表1 地域・性・年齢階級別回答者数

(単位：人(％))

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	計
全体	男性	10 (5.0)	25 (12.4)	29 (14.3)	30 (14.8)	43 (21.3)	65 (32.2)	202
	女性	22 (5.4)	52 (12.7)	67 (16.4)	66 (16.1)	94 (23.0)	108 (26.4)	409
東京	男性	4 (5.8)	6 (8.7)	8 (11.6)	12 (17.4)	11 (15.9)	28 (40.6)	69
	女性	9 (6.6)	15 (11.0)	20 (14.7)	19 (14.0)	32 (23.5)	41 (30.1)	136
名古屋	男性	2 (3.8)	7 (13.5)	4 (7.7)	9 (17.3)	15 (28.8)	15 (28.8)	52
	女性	6 (4.0)	23 (15.4)	21 (14.1)	28 (18.8)	30 (20.1)	41 (27.5)	149
大阪	男性	4 (4.9)	12 (14.8)	17 (21.0)	9 (11.1)	17 (21.0)	22 (27.2)	81
	女性	7 (5.6)	14 (11.3)	26 (21.0)	19 (15.3)	32 (25.8)	26 (21.0)	124

表2 臓器移植に関する情報に用いる媒体

(単位：％)

	よく使う				最初に使う			
	全体 (n=611)	東京 (n=205)	名古屋 (n=201)	大阪 (n=205)	全体 (n=611)	東京 (n=205)	名古屋 (n=201)	大阪 (n=205)
新聞	71.5	69.8	74.1	70.3	9.3	9.8	8.0	10.2
テレビ	90.2	89.3	91.0	90.2	11.8	16.1	10.9	8.3
雑誌	13.8	15.6	16.4	9.3	1.1	2.4	0.5	0.5
本	10.5	12.2	13.9	5.4	6.1	2.9	9.5	5.9
インターネット	10.5	7.3	11.4	12.7	32.4	24.9	34.3	38.0
医療関係者	16.5	16.1	19.4	14.1	35.0	40.5	34.8	29.8
その他	6.5	6.3	10.0	3.4	7.0	8.3	7.5	6.4
適当な媒体がない	1.1	0.5	2.0	1.0	9.8	10.2	7.0	12.2

* 複数回答で回答を得た。